



神奈川県

(案)

資料 3

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所

令和 7 年度 業務実績評価書

令和 8 年 8 月

神奈川県

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 28 条に基づき、次のとおり地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（以下「K I S T E C」という。）の令和 7 年度の業務実績に関する評価を実施した。

1 年度評価の基本的方針

業務実績に関する評価は、「第 2 期中期目標期間に係る地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所の各事業年度の業務の実績に関する評価の実施基準」（令和 5 年 4 月 1 日決定）に基づき、次のとおり行う。

(1) 基本方針

- ア 中期目標の達成に向けて、K I S T E C の中期計画の事業の進捗状況を評定する。
- イ 県民への説明責任の観点から、評価を通じて、中期目標の達成状況や業務の実施状況を分かりやすく示す。
- ウ K I S T E C の組織・業務運営等に関して改善すべき点を明らかにすることにより、法人運営の質的向上に資する。

(2) 評価方法

ア 業務実績の検証

年度評価を実施するに当たっては、K I S T E C から提出された業務実績報告書等を基に、K I S T E C からのヒアリングを実施するなど調査・分析の上、業務の実績の全体について検証を行う。

業務実績の検証は、年度計画に記載されている各項目の事業の進捗状況及び成果等について、できる限り客観的なデータにより適正に行う。

イ 項目別評価（小項目評価）

項目（小項目）ごとに、K I S T E C の自己評価及び年度計画の目標設定の妥当性などを総合的に検証し、K I S T E C の自己評価と同じ 5 段階の区分により評価する。

K I S T E C の自己評価と異なる評価を行う場合は、評価の判断理由等を示すとともに、必要に応じて、特筆すべき点や改善すべき点等があればコメントを付す。

ウ 項目別評価（大項目評価）

項目（大項目）ごとに、業務実績報告書及び小項目評価の結果を基に、業務実績の検証を踏まえ総合的に判断し、5 段階の区分により評価する。

なお、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する評価に当たっては、K I S T E C が重点的に取り組むべきものとして「新たな成長産業を創出する研究開発」「県内企業の競争力の強化を図る技術支援」「県内企業等の製品及びサービスの開発並びにそれらの事業化に係る支援」を重視するものとする。

エ 全体評価

業務実績の検証や項目別評価の結果を踏まえ、K I S T E C の中期計画の進捗状況全体について総合的に判断し、記述式で評価をする。

なお、全体評価に当たっては、県内産業の発展及び県民生活の向上に資することを目的とするK I S T E C の設立趣旨を踏まえ、「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」を重視することとする。

また、必要があるときは、K I S T E C に対して業務運営の改善その他の必要な措置を講ずることを命ずることができる。

(3) 評価委員会の意見聴取

専門的知見に基づく適切な評価を実施するため、神奈川県地方独立行政法人評価委員会条例第3条第2号の規定に基づき、神奈川県地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所評価委員会からの意見を聴取する。

2 全体評価

《評価結果》

令和7年度は、中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

《評価理由》

第二期中期目標期間の4年目となる令和7年度は、年度計画に定めるK I S T E Cの5つの事業の柱である「研究開発」「技術支援」「事業化支援」「人材育成」「連携交流」において、着実な成果を挙げている。具体的には、「マイクロ流体化学プラント開発」において、シーズ段階から育成した基礎研究成果を企業の新規事業として展開し、共同開発研究を進め、社会実装を実現した。

また、生成A Iなど新しい技術の開発動向について継続的に調査した結果を随時反映させながら、ニーズの高い実習講座を実施するとともに、県内の関連機関・アカデミアとの連携構築によりものづくり技術分野の講座拡充を進め、人材育成に貢献している。

さらに、関係機関と協力して、厚生労働省の創薬クラスターキャンパス整備事業に申請するなど、外部機関との連携をとりながら競争的資金の獲得に積極的に取り組み、昨年度を上回る資金を獲得するなど収入の確保に努めている。

この結果、1つの大項目をS評価、3つの大項目をA評価とし、令和7年度の全体評価は、中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にあるものとした。

(大項目評価結果)

住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
業務運営の改善及び効率化	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
財務内容の改善	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある
その他業務運営に関する重要事項	S 特筆すべき進捗状況にある	A 順調な進捗状況にある	B 概ね順調な進捗状況にある	C 進捗がやや遅れている	D 進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある

3 項目別評価（大項目）

3-1 「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上」に関する評価 《評価結果》

令和7年度の評価結果は、S評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

年度計画に設定した数値目標7項目全てで目標を達成した。特に「毛髪再生医療実証」では、令和8年度から企業等からの受託収入等を得て運営する形態へと発展させ、研究成果の出口を複数作ることができた。また、CAEによるシミュレーションなど、KISTECの技術支援の特徴を活かした支援を効果的に行うとともに、機械学習・AIやIoTといった分野においても技術支援を実施し、数値目標の水準を大幅に上回って達成した。

こうしたことから、KISTECの5つの事業の柱のうち、評価に当たって重視するとしている「研究開発」「技術支援」「事業化支援」に関する小項目4つのうち、S評価3つ、A評価1つを獲得した。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にあると判断したことから、S評価とした。

（小項目評価結果）

	S 年度計画を大幅に上回って達成している	A 年度計画を達成している	B 年度計画を概ね達成している	C 年度計画を下回っており改善の余地がある	D 年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
1 新たな成長産業を創出する研究開発（小項目1）★	1				
2 県内企業の競争力の強化を図る技術支援（小項目2）★		1			
3 県内企業等の製品及びサービスの開発並びにそれらの事業化に係る支援（小項目3-4）★	2				

	S 年度計画を 大幅に上回 って達成し ている	A 年度計画を 達成してい る	B 年度計画を 概ね達成し ている	C 年度計画を 下回ってお り改善の余 地がある	D 年度計画を 大幅に下回 っており大 幅な改善が 必要である
4 イノベーションを推進する人材の育成（小項目5－6）	2				
5 オープンイノベーション等を推進する連携交流（小項目7）		1			

★＝大項目評価にあたり重視する項目

（年度計画を大幅に上回って達成している項目（S評価））

【小項目1】研究開発

「毛髪再生医療実証」では、令和8年度から企業等からの受託収入等を得て運営する形態へと発展させ、研究成果の出口を複数作るとともに、「マイクロ流体化学プラント開発」では、シーズ段階から育成した基礎研究成果を企業の新規事業として展開し、共同開発研究を進め、社会実装を実現した。

【小項目3】事業化支援

生成AI活用促進事業では、生成AI等に関わる製品開発等の支援体制の構築や、専門家と連携した企業の課題整理による生成AI等の導入提案を行うなど、中小企業等における生成AI等の活用促進に貢献した。

【小項目4】事業化支援

CAEによるシミュレーションなど、KISTECの技術支援の特徴を活かした支援を効果的に行うとともに、機械学習・AIやIoTといった分野においても技術支援を実施し、数値目標の水準を大幅に上回って達成した。

【小項目5】人材育成

生成AIなど新しい技術の開発動向について継続的に調査した結果を随時反映させながら、ニーズの高い実習講座を実施するとともに、県内の関連機関・アカデミアとの連携構築により、ものづくり技術分野の講座拡充を進めるなど、数値目標の水準を大幅に上回って達成した。

【小項目6】人材育成

学習支援の新たな取組として、教職員を対象とした「なるほど！体験出前教室 夏休み屋台村」や、教職課程を履修する大学生等が講師となる理科実験室「実験秋祭り」を実施するなど、教員の養成段階から現任教員まで一貫した支援を行った。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する評価

《評価結果》

令和7年度の評価結果は、A評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

組織運営について、殿町支所をライフサイエンス系研究の拠点として位置づけ、他機関との連携を図るとともに、改革推進室と技術部が連携し、企業支援の新たな形を模索するなど、組織横断的な連携体制の強化にも取り組んだ。

人事制度の運用について、専門知識を有する職員の確保に向け、法人説明会や所内見学ツアー、技術分野別のインターンシップを開催したことに加え、近隣大学等の就職説明会への参加や理系大学院生向けの就活サイトを活用することで、多数の優秀な応募者を獲得した。

業務運営について、理事長直轄の新設組織である改革推進室を設置するなど、所内改革の推進に努めるとともに、決裁文書の電子保存システムの機能を整備することで所内事務の電子化や効率化を図った。

この結果、「組織運営」「人事制度の運用」「業務運営」について、A評価3つとした。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると判断したことから、A評価とした。

(小項目評価結果)

	S 年度計画を大幅に上回って達成している	A 年度計画を達成している	B 年度計画を概ね達成している	C 年度計画を下回っており改善の余地がある	D 年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
(小項目 8-10)		3			

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

該当無し

3-3 「財務内容の改善」に関する評価

《評価結果》

令和7年度の評価結果は、A評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

収入の確保について、川崎市や公益財団法人実中研らと協力して厚生労働省の創薬クラスターキャンパス整備事業に申請するなど、外部機関との連携をとりながら競争的資金の獲得に積極的に取り組み、昨年度を上回る資金を獲得した。

財務運営の効率化について、社会全体として水道光熱費が高騰している中、光熱水費の執行にあたっては、関係部門と情報共有を図ることで適切に対応するとともに、電気・ガス・水道の使用量等を定期的に確認することで、利用状況の把握にも努めた。

この結果、「収入の確保」「財務運営の効率化」について、A評価2つとした。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると判断したことから、A評価とした。

(小項目評価結果)

	S 年度計画を大幅に上回って達成している	A 年度計画を達成している	B 年度計画を概ね達成している	C 年度計画を下回っており改善の余地がある	D 年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
(小項目 11-12)		2			

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

該当無し

3-4 「その他業務運営に関する重要事項」に関する評価

《評価結果》

令和7年度の評価結果は、A評価とする。

S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。

A：中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にある。

B：中期計画の達成に向けて概ね順調な進捗状況にある。

C：中期計画の達成のためには進捗がやや遅れている。

D：中期計画の達成のためには進捗が著しく遅れており、重大な改善事項がある。

《評価理由》

社会的責任について、県民及び利用者からの信頼を確保するため、ホームページ上で規程集等を掲載し、適切な情報公開を行ったことや、定期的に安全衛生委員会を開催し、職員の安全と健康の確保を図るなど、年度計画に記載された事項を計画どおり実施している。

施設等の有効活用について、必要な修繕や施設の改善を実施するなど迅速かつ適切な維持管理に努めた。なお、海老名本部では、施設老朽化に伴い維持管理費用の増加が見込まれる中、優先順位を踏まえた計画的な維持管理を進め、施設の長寿命化を図っていくことを期待する。

広報の強化について、施設・機器紹介、成果発表、各種イベント、フォーラム及びセミナー等の情報について、動画配信等を活用しながらWeb上でタイムリーな情報を発信し、令和6年度に運用規定を整備したXで情報拡散を行った。

この結果、「社会的責任」「施設等の有効活用」「広報の強化」について、A評価3つとした。

以上、総合的には中期計画の達成に向けて順調な進捗状況にあると判断したことから、A評価とした。

(小項目評価結果)

	S 年度計画を大幅に上回って達成している	A 年度計画を達成している	B 年度計画を概ね達成している	C 年度計画を下回っており改善の余地がある	D 年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要である
(小項目 13-15)		3			

(年度計画を大幅に上回って達成している項目 (S評価))

該当無し

4 評価委員会からの意見、指摘等

(1) 神奈川県地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所評価委員会

委員長	岸本 喜久雄	(東京科学大学(旧 東京工業大学)名誉教授)
副委員長	田中 浩也	(慶應義塾大学環境情報学部教授)
委員	荒木 祥和	(株式会社日産アーク取締役常務執行役員)
委員	岡田 隆三	(株式会社東芝総合研究所シニアフェロー)
委員	加藤 香織	(公認会計士)
委員	橋本 美奈子	(日本濾水機工業株式会社代表取締役社長)

(2) 意見聴取の状況

令和8年7月9日(木)

- ・令和7年度の業務実績の報告について

令和8年8月7日(金)

- ・令和7年度業務実績評価結果について

(3) 評価結果に対する評価委員会の意見

令和7年度の業務実績評価書については、全体として妥当なものである。

(4) 各委員からの主な意見

- K I S T E Cとして非常に良い成果を出している。
- 外部との連携交流について、対面での実施とオンラインでの実施は質の違うものだと考えるので、それぞれのメリットをいかして両面で伸ばしていくことが大事である。
- 技術支援件数が目標に及ばなかったが、技術支援収入は増加している。1件当たりのボリュームが大きくなり、まとまった仕事を受ける機会が増えていることは良い方向ではないか。
- 外部公開しているサイトも多いと思うので、セキュリティホールのチェックや、USBメモリの問題なども含め、職員や関係者がどのように管理しているのかを確認することは重要である。
- ステージゲートを設けて随所で審査を行いながら研究活動を進めていくことは、素晴らしいと思うので、継続していただきたい。
- K I S T E Cの企業支援が、その後企業でどう活用され、どのような結果につながったのか見えると良い。
- 研究開発と技術支援に関して、一律に件数化できない質の部分も評価に入れることも必要だと考える。
- クラウドファンディングによる資金調達の成功事例を今後必要な場面やテーマに沿って活用されると良い。

- 「下町のフラウンホーファー」は期待できる取組であり、日本中に横展開できるモデルになると良い。
- S評価が多いこと自体は素晴らしいが、何が卓越した成果なのかがより伝わるよう評価書に記載があると納得感が出る。提案であるが、第三期中期目標期間においては、A評価を基本とし、数値目標をいくらプラスに達成しても評価を上げることはせず、特筆すべき成果があった際にS評価となるようにしたら良いのではないか。数値目標に何件足りた・足りないの議論ではなく、質的な評価に見直していくとイノベーションが進むと考える。